



泉建設株式会社

IZUMI

2024年度環境経営レポート

(対象期間:2024年1月～2024年12月)



～ 目 次 ～

1. 組織の概要	……1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)	……2
3. 環境経営方針	……3
4. 環境経営目標	……4
5. 環境経営計画	……5
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制含む)	……6
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価(実績には二酸化炭素排出量を含む)、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	……7
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有	……9
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	……9
10. 環境活動の紹介	

発行日: 2025年2月3日

1. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
泉建設株式会社
代表取締役 植村賢哉

- (2) 事業所
本社 兵庫県豊岡市上佐野68-1
TEL:0796-24-2176
FAX:0796-24-2316

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者及び担当者 代表取締役 植村賢哉 TEL:0796-24-2176

- (4) 事業内容
土木工事の施工管理及び土木一式工事
建築工事の設計、監理及び施工

- (5) 事業の規模
受注額 425百万円(活動対象年度)
現場数 28 件

	本社
従業員	10名
敷地面積	200m ²

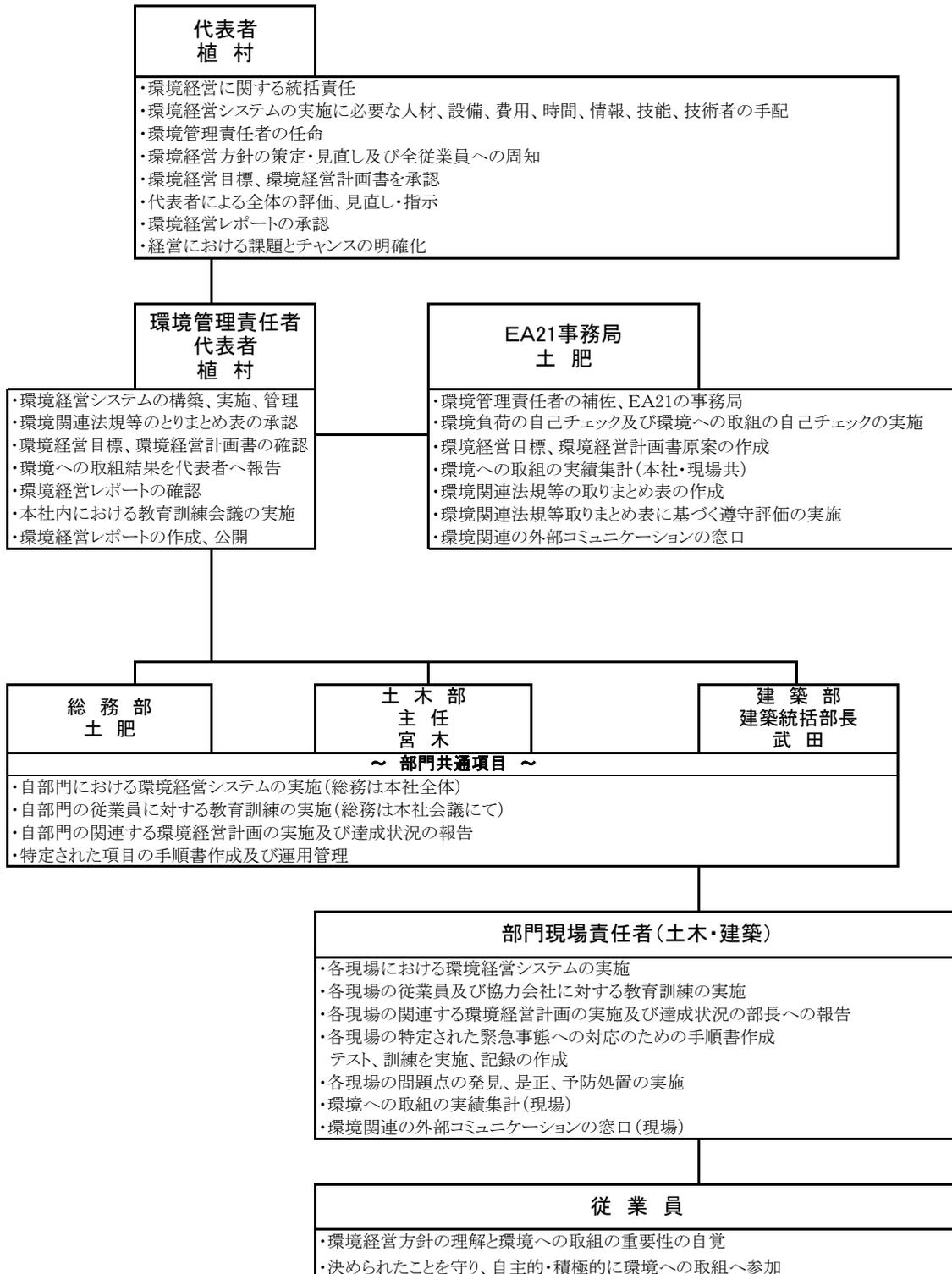
- (6) 事業年度 7月～6月(事業年度)
1月～12月(活動対象期間)

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 対象範囲(全組織・全活動)

登録組織名： 泉建設株式会社
 対象組織： 本社
 活動： 土木工事の施工管理及び土木一式工事
 建築工事の設計、監理及び施工

(2) 役割・責任・権限



3. 環境経営方針

環境経営方針

<環境理念>

当社の経営理念は『躍動感と溢れる個性で地域社会へ貢献します』に沿い、当社に適用される環境関連法規制等を遵守し、土木・建築・住宅産業における地域社会が求める環境負荷の低減と環境にやさしい取組を創意工夫し地域の生活環境と共に事業の発展を調和させ、持続可能な建設環境活動に社員一人一人の個性を一つにして取組みます。



<活動方針>

- 1. 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 2. 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
- 3. 化学物質使用量の削減
- 4. 水資源の節水
- 5. コピー用紙の削減
- 6. 環境に配慮した土木・建築工法の推進
- 7. ICT・新技術を活用した施工の推進
- 8. 環境経営目標の達成状況及び活動計画の実施状況を定期的に確認・評価し、環境経営の継続的改善を実施する
- 9. 全従業員が環境関連法規などを遵守する
- 10. 環境経営方針は全従業員に周知し、社外へ公開する



制定日：2010年10月1日

改定日：2023年1月24日

代表取締役 植村 賢哉

4.環境経営目標

(1) 中期目標

本社・現場統合

項目	年	基準値 2023年	2024年		2025年	2026年	2027年
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)
電力の削減	(kWh)	20,448	20,345	23,795	20,243	20,040	19,839
	基準年比		99.5%	85.9%	99.0%	98.0%	97.0%
	(kg-CO2)	8,874	8,830	10,327	8,785	8,697	8,610
	本社	-	-	8,358	7,110	7,038	6,968
現場	-	-	1,969	1,675	1,659	1,642	
化石燃料 の削減	ガソリン (ℓ)	4,993	4,993	4,742	4,943	4,893	4,844
	軽油 (ℓ)	6,934	6,934	350	6,864	6,795	6,727
	灯油 (ℓ)	0	0	48	47	46	45
	基準年比		100.0%	247.1%	99.4%	97.5%	96.5%
kg-CO2	29,751	29,751	12,038	29,568	28,997	28,706	
上記二酸化炭素排出量小計	(kg-CO2)	38,625	38,581	22,365	38,354	37,695	37,316
一般廃棄物の削減	(kg)	87.0	86.0	74.5	86.0	85.0	84.0
	基準年比		98.9%	116.8%	98.9%	97.7%	96.6%
産業廃棄物の リサイクル	(%)	100.0	100.0	89.0	100.0	100.0	100.0
	基準年比		100.0%	89.0%	100.0%	100.0%	100.0%
水使用量の削減	(m ³)	79	78	78	78	77	76.0
	基準年比		98.7%	101.3%	98.7%	97.5%	96.2%
化学物質使用量の適正管理 (MDI使用量の把握・ 管理) ※2022年より ○現場内完全消費	○/×	○	○	○ MDI使用量11kg	○	○	○
	基準年比		適正管理○	適正管理○	適正管理○	適正管理○	適正管理○
製品・サービスへの 環境配慮 (提案)	(件)	12	12	12	12	12	12
	基準年比		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
太陽光発電システムの 管理	(kWh)	59,907	59,907	57,211			
	基準年比		100.0%	95.5%			

※産業廃棄物のリサイクル率＝再資源化量／排出量×100%

※凡例…… 達成
未達成

(2) 過去実績

本社・現場統合

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	35,033	38,522	38,625	22,365
産業廃棄物排出量	t	297	88	89	185
一般廃棄物量排出量	kg	108	105	87	74.5
水使用量	m ³	89	100	79	78
化学物質使用量	kg	0	1	3	11

5.環境経営計画

2025年度計画

項目	目標	計画	実施時期 実施部署
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減	<ul style="list-style-type: none"> 空調の適温化(冷房28℃程度、暖房20℃程度)を徹底している 空調機のフィルターの定期的な清掃・交換など、適正に管理している 複層ガラス、二重サッシなどを採用し、建物の断熱性能を向上させている 	夏季・冬期 総務部
	自動車燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車への切替えに取り組んでいる タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正值(メーカー指定の空気圧)を保つように努めている 情報化施工による低燃費施工の導入を図っている 	通年 土木部 建築部
廃棄物排出量の削減・リサイクルの推進	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社内LAN、データベースなどの利用による文書の電子化に取り組んでいる 印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮している 	通年 土木部 建築部
化学物質使用量の削減	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場などにおける化学物質は必要最小限の使用量とし、保管は原則行わないようにしている 	通年 土木部 建築部
建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上	建設副産物のリサイクル率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生コンクリートの打設など、気温や湿度、天候、季節に左右される工種は、最適時期に施工するよう工程を工夫している 建設発生土の場内利用や、再利用を図る工夫をしている 施工時、作業時における資材ロスの低減に努めている 建設現場などで発生する廃棄物を混合廃棄物としないよう徹底している 	通年 土木部 建築部
水使用量の削減	水道水の削減	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行している 建設機械などの洗車には、排水路の水や雨水などを利用している 	通年 総務部
自らが施工・販売・提供する環境性能の向上及びサービスの改善	製品・サービスへの環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> 高気密・高断熱の新工法を太陽光とあわせて提案 	通年 建築部

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制含む)

2024年度取組内容・実績

○=出来た、△=一部出来た、×=出来なかった

項目	目標	計画	目標達成度評価	実施時期 実施部署
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減	<ul style="list-style-type: none"> 夏季における軽装(クールビズ)、冬季における重ね着(ウォームビズ)など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑えている 照明器具については、定期的な清掃、交換を行うなど、適正に管理している 	×	通年 総務部
	自動車燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用など、既存の工法を変更し、エネルギーの消費を抑えている 排出車両(ダンプトラックなど)における過積載を行わないよう教育し、監視している 燃料消費の少ない施工方法や作業方法を採用している タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正值(メーカー指定の空気圧)を保つように努めている 	○	通年 土木部 建築部
廃棄物排出量の削減・リサイクルの推進	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤りなどのミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、 	○	通年 総務部
化学物質使用量の削減	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 建設現場などにおける化学物質は必要最小限の使用量とし、保管は原則行わないようにしている 	○	通年 土木部 建築部
建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上	建設副産物のリサイクル率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 仮設材等を再利用し、長期有効利用できるよう配慮している 	△	通年 土木部 建築部
		<ul style="list-style-type: none"> 施工管理の出来型管理計画時に、設計基準に上乘せた自主基準を設けて、生コンクリートやアスファルト・コンクリートの廃棄を抑制している 建設現場などで発生する混合廃棄物を分解などして分別し、リユース、リサイクルしている 再生資源の積極的利用に取り組んでいる 		
水使用量の削減	水道水の削減	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械などを洗車する場合は、泥などを落としてから行っている 事務所や建設現場で使用する水を再利用するための設備を設置し、活用している(中水利用) 	○	通年 総務部
自らが施工・販売・提供する環境性能の向上及びサービスの改善	製品・サービスへの環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光設備の定期点検・清掃を実施。 高气密・高断熱の新工法を太陽光とあわせて提案 	○	通年 土木部 建築部

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価 (実績には二酸化炭素排出量を含む)、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

本社・現場総合

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	取組状況	評価と次年度の取組み内容
二酸化炭素排出量の削減		
電力による二酸化炭素排出量の削減		
目標達成手段		
・夏季における軽装（クールビズ）、冬季における重ね着（ウォームビズ）など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑えている	○	年間通じて冬期におけるウォームビズ徹底が必要。次年度も同様継続していく。
・照明器具については、定期的な清掃、交換を行うなど、適正に管理している	○	定期的に清掃点検を実施していたので、現在の器機ではよく出来ていた。次年度も定期的実施する。
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減		
目標達成手段		
・ICTの活用など、既存の工法を変更し、エネルギーの消費を抑えている	-	該当工種がなかったが、ICTの採用範囲も広がったので、検討範囲を広げる。
・排出車両（ダンプトラックなど）における過積載を行わないよう教育し、監視している	◎	過積載対策は徹底されていた。引き続き過積載対策と併せて管理していく。
・燃料消費の少ない施工方法や作業方法を採用している	○	仮設工事に工夫が見られた。他現場との情報交換で引き続き採用数を増やす。
・タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正值（メーカー指定の空気圧）を保つように努めている	◎	定期的にGSなどでの空気圧点検が出来ていた。引き続き実施する。
廃棄物排出量の削減・リサイクルの推進		
一般廃棄物排出量の削減リサイクルの推進		
目標達成手段		
・コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤りなどのミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットしている	◎	前半はミス印刷が多かったが、4月度より周知がなされミス印刷が減少した。次年度はペーパーレスも併せてミス印刷を減らしていく。
建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上		
目標達成手段		
・仮設材等を再利用し、長期有効利用できるよう配慮している	◎	工夫が見られた。他現場との資材共有を図りロスが出ない様に工夫する。
・施工管理の出来型管理計画時に、設計基準に上乗せした自主基準を設けて、生コンクリートやアスファルト・コンクリートの廃棄を抑制している	◎	施工計画書にて基準値設定されておりその数値を基準とし材料の使用抑制されていた。引き続き計画にて管理する。
・建設現場などで発生する混合廃棄物を分解などして分別し、リユース、リサイクルしている	○	狭小地の現場での分別し難い場所が多く混載となっていた。極力分別できる様に意識しておく。
・再生資源の積極的利用に取り組んでいる	◎	年間通じて良くできていた。引き続き取り組む。

取り組み計画	取組状況	評価と次年度の取り組み内容
水使用量の削減		
目標達成手段		
・建設機械などを洗車する場合は、泥などを落としてから行っている	◎	建設機械については100%洗車でできていた。引き続き行う。
・事務所や建設現場で使用する水を再利用するための設備を設置し、活用している（中水利用）	◎	上記洗車時にも使用されておりよく出来ていた。引き続き取り組む
化学物質使用量の適正管理（把握・管理）		
目標達成手段		
・建設現場などにおける化学物質は必要最小限の使用量とし、保管は原則行わないようにしている	◎	適正に使用されていた。引き続き注意する。
自らが施工・販売・提供する環境性能の向上及びサービスの改善		
目標達成手段		
・太陽光設備の定期点検・清掃を実施。	○	清掃、点検についてはよく出来ていた。次年度より太陽光は除外する。
・高気密・高断熱の新工法を太陽光とあわせて提案	◎	提案は数多く出来ていたが、採用はなかった。今後は補助金も絡めた提案を展開していく。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

※○か×

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	産業廃棄物の委託処理の書面による契約並びに適用マニフェストの使用による交付義務及び処分状況確認マニフェストの保管	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	指定副産物の委託処理の書面による契約並びに適用マニフェストの使用による交付義務及び処分状況確認（再生資源利用促進計画書・実施書作成提出）	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（オフロード法）	規制の対象になる自動車・公道を走行しない特殊自動車（機械全般）等の適合証明	○
建築基準法	内装・空調設備工事におけるホルムアルデヒド・クロルピリホス・石綿等含有資材の使用禁止	○
大気汚染防止法	工事対象（解体・改修）となる部材について石綿が含まれているかを事前に設計図書等の確認及び目視による確認。	○
騒音規制法	杭打機、びょう打機、削岩機、空気圧縮機等を使用する作業の特定建設作業実施届出書提出。騒音規制基準の遵守	○
振動規制法	杭打機、杭抜き機、ブレーカー、舗装版破砕機を使用する作業の特定建設作業実施届出書提出。振動規制基準の遵守	○
豊岡市条例 特定建設作業届（振動・騒音）	杭打ち機・削岩機・空気圧縮機等を使用する作業（特定建設作業）の届出	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出・抑制法）	定期点検・簡易点検及び解体工事（改修工事）に伴う冷媒用フロンの回収、破壊の措置。解体前の確認及び書面説明。簡易点検・記録・保存（廃棄後3年）	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等及び訴訟等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年も物価の高騰により資材調達に関連して見積より施工まで工事全体に影響がありました。

環境面においては電力使用が増加し、使用燃料が大幅に削減となりましたが、活動における削減ではなく仕事量の減少により減りました。

2024年より基準値、目標値をより一層弊社の運営に近い数値となったことで、目標が捉えやすくなりました。

”見える目標”となりこれからも目標達成意欲へと繋がることを

期待し社員一丸となって建設環境活動を継続しひとつでも

多くの目標達成、更には数値の削減を行い環境・経営の両側面

より安定感のある会社を目指していきます。

平成37年2月3日

代表取締役 植村賢哉

環境経営方針	変更なし	-
環境経営目標・計画	変更なし	-
実施体制	変更なし	-

10. 環境活動の紹介

茶葉(事務所花壇等への再利用)



冊子・段ボール 封筒分別状況



太陽光発電システム採用



社会地域貢献実施(ゴミ拾い・除草作業)

